

まち歩き(歩く～作図) の手順の例 (地区・支援者間調整用)

大項目 作業手順の例 (自治会単位での実施を想定) ▶: 実施での新型コロナウイルス配慮例	新型コロナウイルス対策での別対応例 (集まらない方法)	地区の役員・支援者(ヘルパー)の作業内容例
まち歩きの企画		
1 実施単位の検討(合同開催調整): ・自治会内の経路分担(班分け)検討 ・集まる単位は、3密に配慮して、複数自治会で合同実施すれば、他を参照できます。	個人実施でやりきるなら統一的記載方法を決めると混乱抑制	(可能な範囲で合同実施していただければありがたいです)
2 日程を設定し、支援者を調整します。 ・時間の目安: 事前説明・係分け10分/歩く45分/作図45分/発表各3分/次の作業手順40分程度 = 合計2時間半 ・時期により熱中症対策 ・係の例: 班長、記録、計測、写真、発表、安全		ヘルパー人材差配
3 経路を設定します。 ・所要1時間なら1.5~2km程度、面的に見るなら120m四方程度 ・ハザードマップその他被害情報(例: 県H26.3被害想定メッシュデータを町丁目に割り戻した要因別全半壊棟数)、地形の成り立ちを示す土地条件図等地図情報	必要に応じ担当経路を割当	地図は提供可能 ※いわゆる住宅地図は著作権の兼ね合い発生
準備		
4 配付資料を準備します。		提供可能
5 道具類を準備します。		応相談
歩く		
6 経路を以下の点に注意しながら複数で歩き、記録係の共通図へ書込みます。 ※現場と地図の位置合わせがポイントです。	個人で歩く 個人実施の場合は事前提供の地図にメモ	ハザードも含めた地図の提供 ヘルパーが同行など
作図 (いわば地区のオリジナルハザードマップ)		
7 机に地図を広げ囲み、書込・説明して付箋貼付等を行います。 必要に応じ(自治会内複数班、複数自治会合同開催等)なら発表会も行います。 色分けできなければ、形・線種(点線・波線)等で対応	集約 ・例: 白地図を回覧し各自で書込(いわば「寄せ書き」) ・例: メモ入地図を集め誰かが作業(作業員負担大)	ヘルパーが助言など
8 ▶場の例: 机の各辺に1.5人で6人を上限 ▶場の例: 地図を壁に掲げ、半円陣2列で7人程度。対面はやや回避。		
9 (一般的には次の手順での対応ですが) 成果物の共有や定期的な見直しが必要です。		デジタルマップ化

内容のいくつかはH26に実施の「野村地区防災マップ作り」を参照しています。

作業の流れ（案。支援側担当者のイメージ）

別紙

- ①支援側からほしい情報を聞く
- ②地区内で検討・会場の確保等
- ③支援側へ連絡

- ④支援側ではヘルパーの差配(20日程度前～)
- ⑤開催当日(地図(今回は□)・文具等は支援側で準備)

支援側連絡先 平日8:30-17:15

電子メール

電話05X-XXX-XXXX ファクシミリ05X-XXX-XXXX 個人携帯電話090-XXXX-XXXX (緊急時のみ)

支援側がほしい情報

- 1 自治会名
- 担当者名
- 2 連絡先(通常)
当日(携帯電話)
- 3 (あれば) 連絡不都合な時間帯等
- 4 電子メールで連絡可ならアドレス

- 6 実施日時

--

- 7-1 集合・作成場所

--

- 7-2 作成場所所在地

--

- 7-3 支援者駐車場別確保ならその場所

--

- 8-1 経路の距離数 (全体概数)

--

- 8-2 今回想定する避難先

--

- 8-3 班分けの場合の数

--

- 9 参加人数見込 (概数／ほぼ確定)

--

- 11-1 悪天等中止の判断基準(例:大雨中止 等)

--

- 11-2 同上連絡方法

--

※ 用意する地図の範囲について